

イシマキシロマイマイ *Aegista calcicola* (Kuroda in Masuda et Habe)

## 【選定理由】

豊橋市の石巻山山頂付近石灰岩地の固有種である。近年の異常気象に起因する夏季の高温により石灰岩地の乾燥化が進行しており、また、豪雨などによるリター層や土壌の流出なども陸産貝類全般の生息に大きな影響を及ぼし、本種も減少傾向にある。愛知県下のみならず、生息密度が低く、分布域も狭い稀少種である。全国的にも絶滅が危惧されている種であり、石巻山山頂部の局所分布であることから、愛知県下では、絶滅の危険性の高い種と考えられる。

## 【形態】

殻長 7.2~8.0 mm、殻径 11.8~13.5 mm 程度のごく低い低円錐形の小型種である。殻は薄く、殻表はきわめて薄い殻皮で覆われ光沢を有していない。周縁から殻底部にかけては淡黄白色の殻皮で覆われるが、螺旋部は成長線に沿った幅広い白色の殻皮と細い縞状の淡黄色の殻皮が交互するため、若い個体では、きわめて淡い白色の火焰彩様の模様が見られる。次体層にはごく弱い角があるが、体層部の周縁は円く、臍孔は殻径の 1/5 程度の幅で明瞭に開く。軟体は黄白色である。

## 【分布の概要】

## 【県内の分布】

石巻山山頂部のみ分布。記載時(増田・波部, 1989)にはタイプ産地の指定がされていなかったものの、後に、タイプ産地は石巻山とされている(東, 1995)。

## 【世界および国内の分布】

日本固有種。愛知県以外に静岡県(引佐町・静岡市)にも分布記録があるとされたが(増田・波部, 1989; 湊, 2014)、遺伝子解析の結果では、石巻山の個体と静岡県浜松市引佐町の個体とは明らかな別種である(Hirano et al., 2014)。したがって、本種は、石巻山の固有種と考えられる。

## 【生息地の環境／生態的特性】

石巻山山頂部の石灰岩地に生息する。低木や草本の葉裏に付着する個体がよく見られる。食性については植物食で、草本の若葉や分解の進んだ落葉などを食べて生活していると推測される。

## 【現在の生息状況／減少の要因】

徐々に確認個体数が減少しているようであり、減少傾向が考えられる。近年の異常気象に起因する夏季の高温や豪雨などによるリター層や土壌の流出なども本種の生息に大きな影響を及ぼしていると考えられる。石巻山は、本種のほかにも数種の陸産貝類の固有種が存在するため、貝類コレクターの採集圧も無視できないと考えられる。生息場所はきわめて狭く局所的であり、環境が悪化すれば直ちに個体群消滅につながる。

## 【保全上の留意点】

生息地の石巻山は、石巻山・多摩県立自然公園に位置しており、環境が保護されているほか、山頂付近の「石巻山石灰岩地植物群落」は国の天然記念物に指定されているなど、生息地の環境は一応保護されている。ただし、本種は愛知県指定希少野生動植物種とはなっていない。

これまでは、静岡県に生息するニオヤカマイマイの近似種なども同様に扱われていたため、本種と混同しないように注意が必要である。静岡県レッドデータブック 2019 において本種(加藤, 2019)とされている種は、別種であるので注意すべきである。本種の生息が確認される石巻山の自然環境を良好な状態で維持することが重要である。貝類コレクターによる本種生貝の乱獲にも注意が必要である。

## 【特記事項】

イシマキシロマイマイはオトメマイマイやアワジオトメマイマイに近縁な種であり、静岡県引佐町のイシマキシロマイマイ類似種は、殻表に光沢を有し、僅かに殻に円みが強く、ニオヤカマイマイあるいは、それに近縁な種である(Hirano et al., 2014; 早瀬・他, 2016)。また、静岡市には、東(1995)がエンスイマイマイ(平地型)として図示した淡黄白色の種は存在するが、イシマキシロマイマイに該当する種は見られない。したがって、本種は、石巻山固有種であり、この地域の個体群の存在が重要であるため、保護する必要がある。環境省レッドデータブック(2014)のほかに、静岡県レッドデータブック 2019 には、静岡県産の類似種を本種としてランク付けしているが(加藤, 2019)、静岡県産の個体群は別種に位置付けて対応する必要がある。

鳳来寺山自然科学博物館に所蔵される天野景從コレクションの愛知県の陸貝の標本ケース(No.8)には、ウスイロヒルゲンマイマイとされる淡黄白色の低平な殻を有する嵩山産の3個体の標本があり、これをイシマキシロマイマイと考える場合もあるようであるが、静岡県引佐町の個体と同様に、ニオヤカマイマイに近い殻形態にも思われるので、現段階では、嵩山の個体はイシマキシロマイマイとは別種として扱った。今後の詳細な分類学的再検討が必要である。

これまではオトメマイマイ属 *Trishoplita* とされてきたが、分子系統解析の結果、オトメマイマイ類にはおおむねのまとまりがあるものの、オオベソマイマイ属 *Aegista* のクレードには包括されてしまう結果となり、オトメマイマイ属は他のいくつかの属と共にオオベソマイマイ属の異名のひとつとなった(Hirano et al., 2014)。

## 【引用文献】

- 東 正雄, 1995. 原色日本陸産貝類図鑑 増補改訂版, xvi + 80 pls. + 343 pp. 保育社, 大阪.  
 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・矢橋 真・西 浩孝・川瀬基弘・石井健一郎・岩田明久・仲田彰男・藤原隆則・永尾和彦, 2016. 三岳山の貝類相, かきつばた, (41): 1-16.  
 Hirano, T., Kameda, Y., Kimura, K. & Chiba, S., 2014. Substantial incongruence among the morphology, taxonomy, and molecular phylogeny of the land snails *Aegista*, *Landouria*, *Trishoplita*, and *Pseudobuliminus* (Pulmonata: Bradybaenidae) occurring in East Asia. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 70: 171-181.  
 加藤 徹, 2019. イシマキシロマイマイ, p.488. in: まもりたい静岡県の野生生物 2019—静岡県レッドデータブック—動物編, 539 pp. 静岡県くらし・環境部環境局 自然保護課, 静岡.  
 (http://www.pref.shizuoka.jp/kankyoku/ka-070/wild/red\_data03.html)  
 増田 修・波部忠重, 1989. 静岡県陸産淡水産貝類相, 東海大学自然史博物館研究報告, (3): 1-82 + 3 color pls. + xiv pls.  
 湊 宏, 2014. イシマキシロマイマイ, p.367. in: 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編) レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 6 貝類, 口絵 8 + xliii + 455pp. ぎょうせい, 東京.

## 【関連文献】

- 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類, pp.23-40. in: 佐藤正孝・安藤 尚(編), 愛知の動物, 325pp. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.  
 財団法人 自然環境研究センター, 2010. イシマキシロマイマイ, p.989. in: 自然環境保全基礎調査 日本の動物分布図集, 1070 pp. 環境省自然保護局 生物多様性センター, 富士吉田.

(早瀬善正)



豊橋市石巻山, 1989年5月28日,  
木村昭一採集